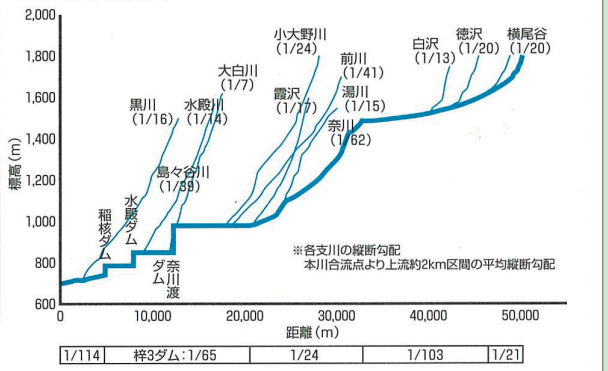
梓川流域

梓川は槍ヶ岳の槍沢に源を発し、上高地の大正池付近で焼岳から流れ出た荒廃が著しい4つの沢を合流。さらに乗鞍岳からの諸支川を合わせ、松本平で奈良井川を合流して犀川となり、安曇野市押野崎で同じ槍ヶ岳を水源とする高瀬川と合流します。

流域の地質は、古生層の粘板岩、チャート、砂岩などで構成され、水源部などでは火成岩の分布がみられます。上流部の山地は風化による荒廃が進み、流域各所には大量の不安定土砂が堆積。さらに焼岳からの火山噴出物の流出も激しく、災害の危険性をよりいっそう高めています。

この流域において直轄砂防事業が開始されたのは昭和7年(1932)。上高地の観光地化に伴い、沿道の山腹工に着手したのが最初でした。昭和19年には日本初のアーチ式の釜ヶ渕堰堤が完成。その後、昭和21年に島々谷川、26年には奈川を直轄区域に編入するとともに、焼岳の対策として中堀沢で砂防堰堤工事が始まりました。そして翌27年には大野川も編入されました。

●梓川水系縦断図



●槍ヶ岳･梓川上流

●焼岳･大正池

●焼岳下堀沢の崩壊地

梓川流域と管内図で取り上げた砂防施設